

むらさき集う

平成25年7月18日発行

発行責任者：結城克明

コンテスト

定期テスト終了時から先週金曜日にかけて行われた学習コンテスト最終回、スペリングコンテストの結果についてですが、30名の生徒が「満点賞」を獲得しました。

3冠王

どのようなことでもパーフェクト、満点をとるのは難しく、並大抵の練習ではとれません。ここに紹介する生徒達は漢字、計算、スペリングと形態の異なる学習領域においてすべて満点という偉業を達成した者たちが9名おりました。ある意味最優秀賞：MVPとでもいうのでしょうか。今後とも学年の学業面での推進役としてがんばれ！



Soccer・Volleyball

この上ない好天のもと男子は校庭で、女子は体育館でレクリエーションを行いました。体育祭は今年度新設された行事です。クラスの和を究極にまで高めるべく子供達の全力プレーが競技の随所に見られました。別項「フォトギャラリー」参照のこと。

<男子サッカー>

1位	6組
2位	5組

<女子バレーボール>

1位	4組
2位	3組

どう・説く



昨日17日(水)4時限目に1組において校長先生を始め、学年の先生方が参観した「道徳」の授業が行われました。

富田中学校ではなぜか「ビバリーヒルズ」という形容詞が昨年度から多用されていますが、その所以はただのいっばなしによるものではないということをお伝えいたします。

各先生方は自分の専門教科のほかにも独特な得意分野があり、たとえテノールの独唱であったり、斎藤和義さんがらのライブ感：ギター演奏と歌であったり、と枚挙にいとまがありません。

当学年にもそういった特別な引き出しを持つ教員がおお りまして、道徳といえば二宮先生、二宮先生といえば道徳といった具合に、常日頃から1組の道徳の時間においては、授業のテーマとなる題材は極限まで深く練り上げて提示され、その手法は我々同じ教員の立場として、垂涎の的となっています。確かに今回の授業では「動画」や「スライド」、道徳的な価値に迫る「体験談」を実に効果的に取り入れ、道徳の授業研究には不向きな水泳の授業後のへろへろであるはずの生徒の意識を「ぐぐっ」とひきつけていました。

1学期を終えるにあたり二宮先生は生徒達に自分の描いていた中学校生活を振り返らせませす。「こんなはずじゃなかった」思いをしっかりと反省させます。『叶う、叶わないを超えたところにある「努力」や「目標」を持つ事が大切である』、『それを信じて「スタート」を切る』といったことを穏やかにしかも自然に提示します。一瞬「チラッ」と生徒たちに目を移します。考えがまとまり、なにかもの言いたげな生徒を指名します。生徒達が考えていることを発言する機会を意図的、戦略的にうながしていました。

今回は大手予備校講師の著書からの発言集をもとに授業が進められていました。「やればできる」という「意志」と「自分を信じてやりぬく」、そんな「勇気」、このふたつを生徒たちは心にしっかりと刻んでいました。

この世の中で○○○○ほど公平で単純なものはない!

自分を超えろ
!

フォトギャラリー



熱戦、只中!!



熱戦、スタンバイ



私かわけ、君が運ぶ これもチームワーク



一糸乱れぬ気迫の準備体操